

起立性調節障害について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
起立性調節障害	<p>◇症状</p> <p>小学校高学年から中学生の思春期前後の子供が、朝起きの悪さ、たちくらみ、頭痛、腹痛、全身倦怠などの身体不調を訴えて小児科を繰り返し受診することがある。しかし一般的な診察や血液検査では該当する異常を認めない場合、多くは起立性調節障害（OD）と診断される。起立性調節障害は、思春期で最も起こりやすい疾患の一つであり、頻度は約5～10%と大変に多いものです。ODの子どもは、朝起きが悪く、なかなか起きない。一日中ごろごろして、夕方になって元気になり、逆に夜には寝付けません。学校を欠席し引きこもりがちになるので、最近、注目されている。</p> <p>◇治療</p> <p>治療は、子どもと保護者の心に思いを馳せて行う。治療の導入に際してまず行うことは、ODの発症機序を子どもと保護者に十分に理解してもらうこと。重症のODの子どもは強い不安を持っている。強い症状に対する不安、周囲から仮病扱いされることへの苛立ち、さらに親子関係における様々な葛藤、学校生活でのトラブル、学校不信といった心理社会的背景を抱えている。医療者は、このような子どもの心のうちを理解した上で、ODとは、どのような病気なのか、メカニズムも含めて十分に説明する必要がある。たとえば、検査結果の血圧記録を示して子どもに説明すると、説得力があり、子どもは自分の症状の原因を知ったことで、ずいぶんと安心する。子どもと医療者の信頼関係が出来ると、その後の治療がすみやかになる。一方、保護者に対しては、OD症状を単なる仮病と見なさないように、説得する。</p> <p>ODの子どもは、放っておくと一日中、ごろごろして、テレビやゲームをしてしまい、勉強の集中力はひどく低下するので、周囲の大人はどうしても怠け癖と見なしてしまう。しかし、これは正しい考えではなく、親に対しては、『決して焦らず、子どもを信じて見守る』ことの重要性を説得していくことが大事である。</p> <p>（起立性調節障害サポートクラブより）</p>	<p>起立性調節障害サポートクラブ</p> <p>http://www.inphs-od.com/ 病院検索</p> <p>http://www.inphs.gr.jp/08hospital/index.html</p>